



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会  
復刊第243号  
2021年9月25日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言 連携を未来へ

副会長 馬場安紀子



実りの秋を迎え、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

今夏は、真夏の猛暑と、感染予防のマスクによる暑さに加え、東京2020オリンピック・パラリンピックの熱戦が繰り広げられ、心身ともに暑い日々でした。COVID-19は爆発的に感染拡大し、全国各地で記録的豪雨災害が発生するなど、さまざまな困難に向き合わざるを得ない夏でもありました。

東京2020オリンピックでは、バスケットボール、スケートボード、卓球など多数の競技で、日本女性の目覚ましい活躍がありました。初メダル獲得や日本新記録の更新が相次ぎ、最年少メダリストも生まれ、マスコミの報道は五輪とコロナ、振れ幅の大きい2本立ての毎日でした。一方で、五輪後に、イスラム主義組織タリバンがアフガニスタンを制圧したという世界を震撼させる衝撃的なニュースがあり、「恐怖政治」の再来が懸念されています。テロの恐怖とともに、厳格なイスラム教理によって、権利が剥奪され外出すら自由にできない女性たちの状況を思うと、胸が痛み、やり切れない想いです。世界中の女性が自由に自己実現を目指せる時代が来ることを切望します。

当会では7月に、2006年まで副会長を務められた石原幸子先生のご逝去という悲しいご報告がございました。私は、2012年より軽井沢セミナーのお手伝いをさせていただき、数々のご指導とご厚情を賜りました。深謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、昨年の緊急事態宣言発令以降、日本女医学会では、理事会も講演会もオンラインが定着したことによって、理事会出席時の地方在住理事の時間的経済的負担が著しく

減り、講演会は世界中からの参加が可能になりました。

第66回定時総会は、zoomによるweb会議で開催され、総会前には支部本部連絡会も同様に開催し活発に意見交換できました。画面上ではありましたが、会員の皆様とお会いして安心感を覚え、大変喜ばしく思いました。出席していただいた会員の皆様ありがとうございました。昨年は叶わなかった各賞の授賞式も、オンラインで受賞者の皆様に出席していただけて挙行でき、印象深いことでした。

web会議は、会場に出向くことなく出席でき非常に便利ですが、当会では会員相互の親睦を深めることを大事に考えております。定時総会は、全会員が一堂に会することのできる貴重な機会ですので、COVID-19が収束した暁には、以前のような活気あふれる会場参加とオンライン参加の同時開催を目指しています。

定時総会では、理事選挙の改正が承認され、地域別選挙に加え、全国選挙が新設されました。これにより、会員の全国的な繋がりの中で、非所属支部・地域からの立候補者を推薦、支援する事が可能になります。現在理事不在の北海道、中国、四国、九州からの立候補を歓迎いたします。

そして現在、理事会では、ホームページ機能の改善、進展計画が、IT部を中心に進行中です。会員の皆様にも活用していただける利便性の高いものを目指して取り組んでおりますので、どうぞご期待ください。

日本女医学会の土台である全国の女性医師の連携を未来へと継続していけるよう、今後ともよろしくご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

## 日本女医学会誌（復刊第243号）もくじ

|          |                                   |                                |          |                            |
|----------|-----------------------------------|--------------------------------|----------|----------------------------|
| 巻頭言      | 馬場安紀子 (1)                         | 公開講演会抄録「思春期から始まる女性の健康 up date」 | 望月善子 (6) | 新連載 会員だより 北から南から 上條順子 (11) |
| 第66回定時総会 |                                   |                                |          | 日本女医学会アーカイブ⑩ (12)          |
| 概要       | 広報部 (2)                           | 第66回定時総会議事録                    | (7)      | 本の紹介『醫の肖像』 角田由美子 (13)      |
| 支部・本部連絡会 | 大谷智子 (3)                          | 追悼 石原幸子先生を偲んで                  |          | 理事会議事録 (14)                |
| 受賞者の言葉   | 藤井紀恵、水品佳子、<br>加藤有加、中川由紀、鎌田ことえ (3) | 鹿田儀子、大谷智子 (9)                  |          | 各賞のご案内 (18)                |
|          |                                   | 国際女医学会通信② (10)                 |          | 会員動静 / 編集後記 (20)           |

# 第 66 回 公 益 社 団 法 人 日 本 女 医 会 定 時 総 会

## 概 要

2021 年 5 月 16 日、第 66 回定時総会は、公益社団法人日本女医会事務局に於いて、定刻通り午前 11 時 00 分に開会された。

なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を鑑み、インターネット回線、及び会議用アプリ ZOOM を用いての開催となった。

開会にあたり出席者の音声ほかの出席者に伝わり、画像を通して意思の疎通ができることが確認された後、馬場安紀子副会長による開会の辞が述べられた。司会の芳川た江子理事によって総会の成立が確認され、定款規程通り出席者 49 名、記名委任者総数 508 名で、2021 年 3 月 31 日現在の会員総数 1001 名の 2 分の 1 以上の出席、及び委任が報告された。その後、2020 年度中に物故された会員 10 名の方々の冥福を祈り、黙祷が捧げられた。

会長挨拶では、今後の会の運営に SNS を活用する、各支部との連携などについて述べられた。

報告事項は、馬場安紀子副会長による「第 66 回 定時総会資料」に基づき行われた。

ナショナルコーディネータ報告は、前田佳子監事から 2020 年以降のコロナ禍の状況下でのオンラインによる国際女医会の活動報告があったほか、2022 年 6 月 24 日から 26 日に台湾で開催予定の、第 32 回国際女医会議について参加の呼びかけがあった。

議事に入る前に、議長の選出があり、会長一任で議長に渡邊弘美会員（東京都支部連合会）、議事録署名人に山崎トヨ会員（栃木支部）が任命され、議事進行が行われた。

その結果、承認第 1 号から第 3 号までが承認されたほか、報告第 1 号から第 3 号の賛同を得て、すべての審議、及び報告が終了した。議長団、及び議事録署名人が降壇し、引き続き各賞の表彰が行われた。

## 議 事

承認第 1 号 2020 年度事業報告承認の件

承認第 2 号 2020 年度決算報告承認の件

承認第 3 号 役員選出に関する規程の一部改訂について

会計監査報告

報告第 1 号 2021 年度事業計画の件

報告第 2 号 2021 年度予算の件

報告第 3 号 次期及び次々期総会開催に関する件

## 表 彰

表彰では、藤井紀恵氏（藤田医科大学医学部輸血細胞治療科 講師）、加藤有加氏（岡山大学病院新医療研究開発センター 講師）、水品佳子氏（自治医科大学臨床検査医学 講師）に学術研究助成が授与され、最も優れた研究として藤井氏に第 5 回山崎倫子賞が授与された。

第 6 回溝口昌子賞は、中川由紀氏（順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学 先任准教授）に授与された。

また、第 3 回山本纈子賞は、鎌田ことえ氏（東北大学医学部麻酔科学：周術期医学分野 助教）に授与された。

各賞の授与が行われた後、本年度の永年会員 14 名の氏名が読み上げられた。

表彰の終了後、花岡和賀子副会長により閉会の辞が述べられた。

（受賞者の肩書は応募当時のものです。文責 広報部）

## 2021 年 公益社団法人日本女医会 支部・本部連絡会

公益社団法人日本女医会会長 大谷智子

2021 年の公益社団法人日本女医会第 66 回定時総会の前に開かれた令和 3 年支部・本部連絡会は、数年来に開催された会議とは異なる形式で行わせて頂きました。

支部・本部連絡会規程には、各支部の代表者および連絡会員との交流を図る会と明記され、連絡会員については支部の代表者（支部長）と、その構成員の有志とされています。

コロナ禍にて支部・本部連絡会もオンライン開催となりましたが、オンラインにより多くの支部の皆様との交流を図れる良い機会と考え、地方担当理事の方々に各都道府県の代表の方に連絡をお願いし、47 都道府県中 37 の支部代表のご出席を得ることができました。

また、この機会に新しく支部長や代表者が決まった支部があったことは大きな進歩と感じた次第です。新しい SNS を利用して、地域同士の繋がりを深めていく方策を検討していきたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症の感染爆発は日本全国のあらゆる地域で災害級の拡大を示し、予想がつかない状況に至っています。過去に経験したことのない試練に立ち向かっている会員の先生方が忙しい中、ご参加頂いたことに改めて感謝を申し上げます。

次年度には、皆様と再び支部・本部連絡会を充実させてご報告できるよう尽力していきますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 受賞者の言葉



山崎倫子賞

### 間葉系幹細胞由来「細胞外小胞」を応用した T 細胞急性リンパ芽球性白血病の治療開発

藤田医科大学医学部輸血細胞治療科

藤井紀恵



この度は栄誉ある第 5 回山崎倫子賞を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様には心より御礼申し上げます。

T 細胞急性リンパ芽球性白血病（T acute lymphoblastic leukemia: T-ALL）は急性リンパ性白血病の約 20% を占めます。分子標的薬であるチロシンキナーゼ阻害剤の登場で B 細胞急性リンパ芽球性白血病（B-ALL）、特にフィラデルフィア染色体陽性症例で治療成績がめざましく進歩しましたが、T-ALL の治療は進歩が見られず、約 10 年前に Nelarabine の有効性が示されものの治療上の課題として不可逆的な神経毒性が存在します。多剤併用化学療法や同種造血幹細胞移植の治療に反応しない難治例や再発・再燃例では予後は極めて不良であり、T-ALL 根絶には新規治療法の開発が臨床上的重要課題となっております。

細胞外小胞（extracellular vesicle: EV）は直径 100 nm

程度の生体粒子で、タンパクや核酸分子などを内包しております。細胞から分泌された EV は標的細胞に取り込まれ様々な生理活性物質を伝搬することから、細胞間コミュニケーションツールとして機能し、生体の様々な局面において重要な役割を果たしています。

私はこれまで間葉系幹細胞（mesenchymal stem/stromal cell: MSC）に関する研究を行ってきました。MSC は造血幹細胞移植後急性移植片対宿主病（急性 GVHD）に対する日本初の再生医療等製品として販売されましたが、その治療効果メカニズムは長らく不明でした。先行研究において MSC の急性 GVHD に対する治療効果は MSC の分泌する EV より再現されることを見だし、網羅的解析では EV 中の重要なエフェクター分子である microRNA が T 細胞受容体シグナルを抑制するという興味深い知見を得ました。

そこでこれまでの研究をさらに発展させ、MSC-EV が T 細胞性腫瘍、特に難治性である T-ALL においても有効ではないかという着想に至りました。

現在その仮説を支持する実験データが得られており、貴学会からの助成を受けさらに研究を発展させ、MSC-EV の T-ALL に対する創薬と治療応用を目標として臨床に還元できるような成果を上げていく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



## 学術研究助成

急性肺傷害における  
炎症性細胞 Pyroptosis  
の役割の解明

自治医科大学附属病院 臨床検査医学 講師

水品佳子



この度は日本女医会第41回学術研究助成を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会会長をはじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

私は自治医科大学附属病院で初期研修および内科研修を行い、その後自治医科大学呼吸器内科に入局しました。そこで臨床経験を重ねる中で治療方法が確立していない呼吸器疾患の研究に興味を持ち、2012年に大学院に入学し基礎研究を開始しました。

急性肺傷害 (acute lung injury: ALI) や急性呼吸窮迫症候群 (acute respiratory distress syndrome: ARDS) は全身性炎症や肺組織の直接的な傷害によって誘導されます。その病態の詳細は不明で、現在においてもARDSの死亡率は20～30%と高く、有効な治療方法は確立されていません。そこで私はこれまでにALIにおけるIL-1 $\beta$ やNLRP3インフラマソームの役割の解明を研究テーマに、マウス高濃度酸素暴露モデルや、マウス誤嚥性肺臓炎モデルを用いた解析を行ってきました。NLRP3インフラマソームは危険シグナルを認識することで形成される細胞質内のタンパク質複合体で、プロテアーゼであるCaspase-1を活性化します。Caspase-1は強力な炎症性サイトカインであるIL-1 $\beta$ 前駆体を成熟型にプロセッシングする代表的なプロテアーゼです。またCaspase-1を含む種々のCaspaseは、それ以外にGasderminの切断を介して細胞膜に孔を形成することで生じるpyroptosisという細胞死の機構に関与することが近年明らかになりました。ALIにおけるpyroptosisの役割については不明な点が多く、現在はALIにおけるpyroptosisの役割を解明し、新たな治療標的を同定することをテーマに研究を進めています。

大学院卒業後は臨床業務と併行しての研究で、時間的な制約はありますが、今回の受賞を励みに、今後はさらに研究を発展させ、その成果がALIの分子病態の解明や新たな治療方法の開発につないでいけるよう、今後はさらに努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 学術研究助成

ROS1 融合遺伝子陽性肺癌  
における ROS1 阻害剤耐性への  
新たな治療法の探索と  
肺癌治療への期待

岡山大学病院 新医療研究開発センター

加藤有加



この度は、学術研究助成を賜り誠にありがとうございます。日本女医会理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様へ深く御礼申し上げます。本受賞を励みに日常診療に繋がる肺癌の研究を継続して行っていききたいと思います。

切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 (以下、「NSCLC」) の治療方針は、過去20年間で大きく変化し、EGFR 遺伝子変異、ALK 融合遺伝子等のOncogenic driver 遺伝子を標的とした分子標的治療薬に加え免疫チェックポイント阻害剤が開発され、飛躍的な治療成績の改善が得られています。しかし、進行・再発NSCLCは予後不良の疾患群であることに変わりなく、今後も治療にむけた治療開発が必要とされる分野です。

私は初期研修を行った後、肺癌治療への興味から四国がんセンターで研修を行い岡山大学大学院医歯薬学総合研究科にて、NSCLC患者の1～2%に認められるc-ros oncogene 1 (以下、「ROS1」) 融合遺伝子の研究を行いました。MET/ALK/ROS1を標的としたALK/ROS1阻害剤としてクリゾチニブがROS1融合遺伝子を有するNSCLC (以下、「ROS1陽性肺癌」) の治療薬として初めて2016年に薬事承認され、最近ではエヌトレクチニブも日常診療で使用可能となっています。いずれの薬剤もROS1陽性肺癌に対して著明な有効性を示しますが、治療開始後、約1年の経過ではほぼ例外なく薬剤耐性を獲得し、治療効果が乏しくなる厳しい現実があります。また、日常診療で遭遇するROS1陽性肺癌患者さんの多くは、若く働き盛りの世代である特徴があります。そのためROS1阻害剤に対する薬剤耐性の機序を解明し、新しい治療戦略を開発することは一人ひとりのROS1陽性肺癌患者さんが恩恵を受けて頂けるだけでなく、社会的にも大きな意味があることであると信じています。

将来的にはトランスレーショナル・リサーチを実装すべく臨床試験に取り組み、実際に多くの患者さんに新規治療の提案と恩恵を受けて頂くことが目標です。その基盤として、足元を見失わず初心を忘れることなく、日常診療にも誠実に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、厳格なご指導と多くの好機を与え、

育ててくださった呼吸器・アレルギー内科の木浦教授、当センターの堀田教授をはじめ岡山肺癌研究グループの先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

#### 第5回 学術研究助成 溝口昌子賞

### 継続することに価値があり

順天堂大学大学院医学研究科  
泌尿器外科学講座

中川由紀



この度は、栄えある第5回学術研究助成 溝口昌子賞を賜り、誠にありがとうございます。活躍する女性医師のキャリアアップと永年勤続を支援することを目的として設立されたこのような栄誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。日本女医会の理事会並びに選考委員、ご推薦いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

私は、子供の時から腹部外科医になりたかったのですが、ポリクリの最後に腎移植を見た時に、「これがやりたい。」という思いがこみ上げて来たのを今でも覚えています。結婚願望はあまりなかったのですが、女性として産まれたからにはどうしても自分の子供を産み育てたいという想いはありました。当時女性医師の割合は8%の時代、外科医で子供を産み育て、さらに第一線で仕事をする事は不可能と言われていました。学生の時、いろんな先生方に話を聞きましたが、移植外科医を続けて子供を持てる確信は得られませんでした。子供を産み育て、移植外科医は継続できないのか、学生時代すごく悩んだ事を記憶しています。結局、自分で出した答は、とりあえずやりたい事をやろう、そしてやってみて駄目だったらその時考えようと思い、東京女子医科大学第三外科 故太田和夫教授のもと、6年間の外科研修（腎不全外科、移植、泌尿器科、透析医療の研修システム）に入局しました。移植医療は本当に面白く、勉強すれば勉強するほど限りなく奥が深く、臓器不全患者は予想もしえない合併症や術後経過があり、目の当たりにする度に勉強の機会はどんどん広がりました。緊急の処置、手術の多さには限りなく、プライベートな時間など全くもてない、またそれが楽しくて仕方ない日々でした。家族や医局の仲間の協力のおかげで30年たった今でも大好きな移植医療に携わり、大好きな子供に囲まれています。

どんな形でも継続する事が大切です。それには理解ある指導者と仲間、家族の協力が必要です。環境は待つだけではなく、自分で造って行くことも大切です。幸い私は、素晴らしい指導者、仲間恵まれ2014年に文部科学大臣表彰「科学技術賞・理解増進部門」を「地域

医療機関を中心とした献腎移植の普及啓発」で受賞、2018年には国際移植学会でWIT〔(women in transplantation) Unsung Hero Award〕を受賞できました。

今後も、多くの人たちとの絆を大切に、この度いただきました賞に恥じないように移植医療の推進のために邁進していきたいと思っています。最後になりましたが、いつもご指導、ご協力いただいております新潟大学、順天堂大学泌尿器科講座の先生方はじめ関係の皆さまにこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 第3回 山本纈子賞

### 第3回山本纈子賞を受賞して

東北大学医学部麻酔科学・周術期医学分野・助教  
鎌田ことえ

このたびは第3回山本纈子賞を賜り、大変光栄に存じます。伝統ある日本女医会での受賞は私にとって大変意義深く、今後の臨床・研究への大きな動機付けとなりました。日本女医会会長をはじめ理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。またご多忙にもかかわらず心温まる推薦のお言葉を下さいました川上順子先生（東京女子医科大学名誉教授）、加藤庸子先生（藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科教授）に心より感謝申し上げます。

私は東京女子医科大学卒業後すぐに母校の麻酔科学教室に入局し、現在の東北大学病院勤務に至るまで、ずっと臨床麻酔に従事しております。とくに脳神経外科症例の麻酔管理に力をいれており、第3回山本纈子賞受賞テーマと関連する覚醒下開頭手術のほかにも、小児全身麻酔下ガンマナイフ治療システムの構築など、精力的に活動してまいりました。常に臨床家としての視点を忘れないことをモットーとし、より安全で快適な麻酔を提供するためになにができるのかを考え、その結果を国内外の学会や論文として発表しています。その他にも社会貢献活動として海外医療ボランティアを続けており、Viet Duc University Hospital（ハノイ、ベトナム）で覚醒下開頭手術を立ち上げたほか、その後もASEAN Neurosurgical Society 定期総会での招待講演等を通じて継続的に活動しております。

麻酔科医は、文字通り“手術室での縁の下力持ち”です。けれども患者を中心としたチーム医療の一員として重要な役割を担っており、これは覚醒下開頭手術においても同様だと考えます。患者にとってより安全な麻酔方法・気道管理法を選択し、意識下にある患者が手術に集中できる環境を整備することによって、われわれ麻酔科医も手術成績

の向上に貢献することができます。覚醒下開頭手術と全身麻酔手術の唯一の相違点は“開頭手術の途中で患者が意識下にあること”であり、言語・運動機能をリアルタイムにモニタリングしながらの病変摘出が可能のため、“高次脳機能の温存が可能な唯一の手術方法”として欧米諸国を中心に普及してきました。しかしアジア諸国での講演や医療ボランティアとしての活動を通して、覚醒下開頭手術に“麻酔薬

使用量(料)の削減”をも期待する声を聞き、本術式の発展性を感じずにはいられませんでした。女性医師の海外におけるグローバルな活躍を目的として創設されました山本續子賞を励みとして、覚醒下開頭手術の意義や麻酔科医としての役割に関する知見を発信していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 日本女医会第66回定時総会公開講演会 抄録

### 「思春期から始まる女性の健康 up date」

医療法人もちづき女性クリニック 望月善子

人生百年、超高齢社会を迎えているわが国では健康寿命の延伸が課題であり、女性特有の健康リスクに対してライフステージに応じたトータルヘルスケアが重要である。女性のライフステージは、性機能すなわち性ホルモン(エストロゲン)の状態によって思春期(10～18歳頃)、性成熟期(18～45歳頃)、更年期(45～55歳頃)、老年期(55歳～)に分けられる。妊娠出産回数が減った現代女性では戦前の女性の約10倍の月経回数があり、そのために月経困難症や月経前症候群など学業や就業に影響する疾患が増加している。また、老年期に発症する疾患は高齢になって急に発症する急性疾患ではなく、ある程度の潜伏期をもって発症する慢性疾患と考え、閉経後の長い人生を健康に過ごすためには、若年期からの適切な管理と適切な介入が求められる。

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)は、若い時は月経異常や不妊症などの病態が問題となるが、本疾患は潜在的に子宮体がんや耐糖能異常などのリスク因子がある

ので、長期的ながん検診や糖尿病のリスク管理、メタボ対策が必要となる。

思春期の月経困難症は鎮痛剤のみの対症療法で済まされることがあるが、70%が子宮内膜症に発展するという報告があり、子宮内膜症予防のためにもホルモン療法が勧められる。子宮内膜症は月経困難症や不妊症、チョコレート嚢胞の悪性化だけでなく、閉経後の脳梗塞、狭心症、高血圧といった心血管疾患、骨粗鬆症、脂質異常症といった内分泌疾患に関連があると示唆されている。

妊娠糖尿病は高率に2型糖尿病に進展し、妊娠高血圧症候群はその後の高血圧症や脂質異常症のリスクとなる。すなわち、いずれの妊娠合併症も心血管疾患の発症リスクが高くなるので、分娩後の管理が必須である。

女性の寝たきり原因疾患となる骨粗鬆症もまた、エストロゲン欠落と密接な関係がある。思春期女子の年間骨密度増加率は11～14歳が最も大きく、少なくとも10代後半には一生の中の最大骨量に達するとされる。この大切な時期に無月経が続くと、十分なエストロゲン分泌がないので骨量獲得が困難となる。したがって、無月経は放置すべきでなく、骨量測定も必要である。

女性のQOL向上のために大切なことは、まず自分のからだを知ることであり、そのためには正しい知識を得て、定期検診を受けることだろう。がんを早期に発見する、骨を守る、筋肉量を維持する、血管を守る、うつにならない、皮膚の老化を予防するといった条件が整えば、健康寿命から幸福寿命に繋げていけると考える。

公益社団法人日本女医会 第66回定時総会 online 公開講演会

### 思春期からはじまる 女性の健康 update

2021年  
視聴無料  
5月16日 日 13:30-14:45  
ZOOM ウェビナーでのオンライン開催  
参加申込Email [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)  
詳しくは裏面をご確認ください。(申込期間:4月13日～5月12日)

<講師>  
望月 善子 先生  
医療法人もちづき女性クリニック理事長／  
獨協医科大学医学部産婦人科特任教授

思春期から老年期まで、女性のトータルヘルスケアについて、日本女医会学会専門医で、テレビでも活躍の望月善子先生にお話をいただきます。  
ぜひご参加ください。

〒151-0051  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-31-19  
03-5467-0020 fax 03-5467-0821  
Email [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)

### 視聴の申し込み方法

配信はZOOMウェビナーで行います。事前のご登録をお願いします。  
申し込み期間 4月13日(水)～5月12日(木)

【参加費】  
※Emailの場合  
①下記アドレスにEmailを送信してください。  
件名に「総会公開講演会申し込み」とご記入ください。  
本文欄には、お名前を必ず入力してください。(後者の場合は支店名もご記入下さい)  
・ご質問がある場合は5月6日までに送信して下さい。  
・講演資料をご希望の場合は、その旨記載して下さい。  
申し込み e-mail: [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)

※QRコードからの場合  
①スマートフォンでQRコードリーダーから、右のQRコードを読み取って申し込み下さい。

②事務局より当日参加用のURLを返信いたします。シンポジウム前日までに返信がない場合には申し込みメールにてお問い合わせ下さい。

③講演会当日は、送信されたURLをクリックしてご参加下さい。

※ご登録いただいた個人情報は、以下のとおり取り扱いいたします。  
1. 個人情報の提供は必ず同意(同意は年次更新あり。平成30年3月30日公表)を遵守し、個人情報を厳密に管理いたします。  
2. 貴会との関係は終了し、ご登録者の同意なく第三者への個人情報開示は致しません。

【Zoom参加方法】  
①配信はZOOMのウェビナーで行います。ZOOM機能の視聴には時間の関係でご参加できません。申し込み時に、事前にZOOMをお申し込み下さい。  
②ZOOMクライアント(またはPC)からZOOMクライアントをダウンロードし、インストールが必要です。長期間利用によりダウンロードを推奨しますので、有線、またはWi-Fiでの接続をお勧めします。  
③ZOOMクライアントをダウンロードし、ZOOMのアプリケーション(最新版)をダウンロードして下さい。  
④ZOOMクライアントを起動するとZOOMクライアントは自己責任となります。  
⑤参加者の接続環境により、画質や音質、通信速度の不具合が発生する場合があります。  
⑥参加者による許可のない録画・録音・撮影は固く禁じます。



## 公益社団法人日本女医会 第66回定時総会議事録

2021年5月16日（日）午前11時00分より、公益社団法人日本女医会事務局（東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目3番19号 ロワレル千駄ヶ谷202号室）に於いて、インターネット回線、及びWeb会議用アプリ ZOOM を用いて第66回定時総会が開催された。

開会にあたり、ZOOM により出席者の音声ほかの出席者に伝わり、また、画像を通して意思表示ができることで、出席者が一同に会するのと同様に適宜意見の表明が互いにできる状態となっていることが確認された。

### 開会の辞

馬場安紀子副会長より、開会の辞が述べられた。

司会の芳川た江子理事より2021年3月31日現在の会員総数1,001名に対し、出席者数49名、記名委任者数508名、合計557名であり、公益社団法人日本女医会定款第18条、第19条の規定により、出席が会員総数の2分の1以上に達しており、本総会が成立する旨の報告があり、開会を宣した。

### 黙祷

2020年度中に物故された会員10名の方々の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

### 会長挨拶

議案の審議に先立ち、大谷智子会長より挨拶があり、今後の会の運営にSNSを活用する、各支部との連携、日本女医会から発信する新たな企画を打ち出すといった内容が述べられた。

### 報告

1) 馬場安紀子副会長より、「第66回 定時総会資料」に基づき会員動静、第65回定時総会での審議の結果、会費納入状況、理事会役員、理事会開催日、部会開催日、各賞の選考委員会開催日等に関する報告が行われた。

2) ナショナルコーディネータの前田佳子監事より、2020年以降のコロナ禍の状況での、オンラインによる国際女医会の活動報告があった。そのほか、2022年6月24日から26日に、第32回国際女医会議が台湾で開催予定である旨の報告があった。

以上の報告につき、司会者が質問を求めたところ、質問がなかったため、引き続き議長団、及び議事録署名人の選出に移った。

### 議長団選出

司会より参加者に対して議長、並びに議事録署名人の推薦について会長一任を諮ったところ、異議がなかったため、議長に渡邊弘美会員、議事録署名人に山崎トヨ会員が指名され、選出された。

### 議事

#### 【承認第1号】

##### 2020年度事業報告承認の件

馬場安紀子副会長より、「2020年度事業報告」に基づき説明が行われた。

#### 【承認第2号】

##### 2020年度決算報告書承認の件

花岡和賀子副会長より「2020年度収支計算書」に基づき説明が行

われた。

#### 【会計監査報告】

前田佳子監事より、2021年4月に慎重かつ厳正な会計監査を実施し、その結果、適法かつ正確であることを確認した旨が報告された。

議長は承認第1号、及び第2号について賛成者の挙手を求めたところ、挙手多数（2分の1以上）と認められたため、承認第1号、及び第2号は原案の通り承認された旨を述べた。

#### 【承認第3号】

役員選出に関する規程の一部改訂について

大谷智子会長から事前に配布された資料に基づき、役員選出に関する規程の一部改訂についての説明があり、審議が求められた。

議長は、承認第3号について質問、意見を諮ったところ、以下の質疑応答があった。

質問：全国枠を新たに設けた場合、所属支部の支部長ではなく他の支部からの推薦によって全国枠から立候補できるということになるのか。

回答：すべての会員は、自分が所属する支部からの地域枠立候補と、他の支部の推薦による全国区枠からの二通りの立候補の方法が可能になる。これによって、より多くの会員が立候補の機会を得ることができると考えている。

質問：そもそも、一部の会員からの要望だけを汲み取って規程の改定を行うのは不合理なのではない

か。

回答：本件は、一部の会員からというだけではなく、以前の役員選挙の際でも話し合われてきたことである。

現実的には、支部長による支部内会員の把握には、支部によって温度差があり、立候補時に推薦状を書くにあたっては、面識のない人物の推薦理由を書かなくてはならないという状況が起こりうると考えられる。こうしたことから、規程の改定は、選挙の公平性を保つために必要な措置と考えている。

質問：どうしても立候補を希望するということであれば、所属支部の支部長に連絡を取ればいいのか。

意見：自分が所属する支部は、県内でも会員同士の交流がないため、こういった制度は必要なのではないかと思われる。

回答：現代はネットの時代でもあり、自分の支部内だけでなく、ぜひ立候補してほしいという人材が支部の枠を超えていた場合でも、情報共有できるという利点がある。

今回の改定で加えられる全国枠の立候補者数は 2 名までであり、選挙全体に大きな偏りを生じさせる変更だとは認識していない。むしろ選挙の自由を優先させるという点で必要だと思われるので、ぜひご理解頂きたい。

以上の質疑応答の後、議長は承認第 3 号について賛成者の挙手を求めたところ、賛成多数（2 分の 1 以上）と認められたため、承認第 3 号は賛成多数として承認された旨を述べた。

その後、議長より以下の報告第 1 号「2021 年度事業計画の件」、及び報告第 2 号「2021 年度収支予算の件」については、すでに理事会の承認を経て、内閣府への報告が完了しており、承認決議を行わない旨が述べられた。

#### 【報告第 1 号】

##### 2021 年度事業計画の件

馬場副会長より、定時総会資料「2021 年度事業計画」に基づき説明があり、2020 年度末に内閣府に提出した旨の報告があった。

その後、議長は報告第 1 号について賛同の可否を問い、とくに発言はなかったため報告第 1 号を賛成多数とする旨を述べた。

#### 【報告第 2 号】

##### 2021 年度予算の件

花岡和賀子副会長より、定時総会資料「2021 年度収支予算書」に基づき説明が行われ、2020 年度末に内閣府に提出した旨の報告があった。

また、最後に当会の運転資金増強のための寄附金、また会員の勧誘等への協力の呼びかけがあった。

その後、議長は報告第 2 号について賛同の可否を問い、とくに発言はなかったため報告第 2 号を賛成多数とする旨を述べた。

#### 【報告第 3 号】

##### 次期及び次々期総会開催地に関する件

大谷会長より、次回の第 67 回定時総会は 2022 年 5 月 15 日に東京、次々回の第 68 回定時総会は、2023 年 5 月 21 日に栃木県宇都宮市において開催される予定である

旨が述べられた。

議長は、本日の ZOOM を用いた第 66 回定時総会は、異状なく議案のすべての審議が終了した旨を述べて、審議を終了した。

#### 表彰

##### 1) 学術研究助成授賞者

藤井紀恵

（藤田医科大学医学部輸血細胞治療科 講師）

加藤有加

（岡山大学病院新医療研究開発センター 講師）

水品佳子

（自治医科大学臨床検査医学 講師）

##### <第 5 回 山崎倫子賞>

同賞は、上記 3 名のうちから藤井紀恵氏に授与された。

##### <第 6 回 公益社団法人日本女医会 溝口昌子賞>

中川由紀（順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学 先任准教授）

##### <第 3 回 公益社団法人日本女医会 山本纈子賞>

鎌田ことえ

（東北大学医学部麻酔科学：周術期医学分野 助教）

功労会員 該当者なし

永年会員 全 14 名

#### 閉会の辞

花岡和賀子副会長より、閉会の辞が述べられた。

午後 12 時 30 分閉会



# 追悼

## 石原幸子先生を偲んで

たくさんのことを  
成し遂げられた 90 年

北支部長 鹿田儀子

石原幸子先生が、2021年7月11日、午前5時にお亡くなりになられたとの連絡がありました。少し前に、あまりお元気がないとお知らせに、「早く元気になってくれれば」と思っておりましたが、訃報のお知らせに言葉がありませんでした。

今年3月、体調が良くないので息子様が診療されています福島の病院に入院されましたが、元気になられたと伺い、秋頃にはお逢いできると考えておりましたので、本当に残念です。

先生は、東京女子医科大学卒業後、同大学の榊原教授心臓研究所に入局されました。その後、同じ医局の昭先生とご結婚されました。ご夫妻でトルコ共和国の国立病院より心臓外科のご指導を要望され、渡航されました。トルコ共和国からはとても感謝され、その後トルコにいらした時には国賓として迎えられたと聞いております。帰国されてからは、母校の東医療センター小児科で日々、熱心に診療されていました。その後、東京の練馬区富士見台に開業され、88歳まで地域医療に尽力され、練馬区から表彰されています。

また、先生は日本女医会では、理事、そして副会長として長きにわたり会の発展にご尽力されました。日本女医会創立百周年記念の会、東京で開催された国際女医会議開催には、副会長としてご活躍されました。

また、小児科医として日本女医会での小児救急事業

のマニュアル本「どうしよう…子どもの救急」の制作にリーダーとして力を注がれましたほか、同好会「軽井沢セミナー」を立ち上げるなど、会員の親睦を深める活動も進められました。多くの功績から、平成18年には吉岡彌生賞を受賞されております。

私事では、国内外の旅行やゴルフなどで一緒にさせて頂き、優しいお人柄の先生との沢山の思い出があります。先生に感謝するとともに、これらの思い出を大切にしたいと思います。

沢山の事を成し遂げられた90年。どうぞごゆっくりとお休みください。

先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

### バイタリティーと 和やかなお人柄

会長 大谷智子

東京女子医科大学附属第二病院（現・東医療センター）小児科医局の同窓生でもある大先輩の突然のご逝去に驚いたとともに、石原先生により導かれた今の自分の存在に改めて気づかされました。

石原先生は、昭和57年5月に日本女医会理事に選任され、昭和60年5月より常任理事に就任されました。副会長を平成9年5月から8年間務められ本部で多岐にわたりご活躍され、平成17年5月に役員を勇退された後に小児救急事業の拡充のために独立行政法人福祉医療機構へ日本女医会として応募されました。「21世紀の子どものための小児救急医療の整備と提言事業」が採択され約1000万ずつ助成金を受けることができました。21世紀の子どものための小児救急医療の整備と提言事業・委員会の委員長として石原幸子先生が指揮をとられ、当時の日本女医会の役員として活躍されていた小児科医の鹿田儀子先生、森川由紀子先生、山崎トヨ先生が委員となり保護者向けに子どもの救急に対する冊子を作成する計画が立てられました。臨床経験の豊富な前神奈川県支部長の山崎康子先生、元埼玉県支部長の村田 郁先生、保育園の小林ふみ子園長や保育士の神保直美先生も参加されました。同窓である伊藤けい子先生と私も作成委員会として一緒に参加し総勢10名の作成委員会となった次第です。開業されているベテランの小児科医師である諸先生と実際の臨床現場で保護者が訴える救急項目を選び、対応策を理解しやすいようにイラストを交えて議論を重ねた待望の冊子である「どうしよう子どもの救急」は2007年3月に完成致しました。日本女医会の刊行物として発行して年月を経ているにも関わらず役立つ冊子として45,000冊以上を販売し、現在も受注を頂いています。さらに2012年には当時の理事であり現神奈川県支部長の小関温子先生の尽力にて英語版冊子の完成に至りました。委員長である石原幸子先生を中心に何度も会議が営まれ、活発に討論が繰り返されていたことが今も思い出されます。私の母親と同じ年代の先生方のバイタリティーに私自身が元気を頂いていた気がします。

また、石原幸子先生は、軽井沢が大好きで毎年夏には避暑に行かれ、日本女医会の同好会である秋に催される軽井沢セミナーの会長でもありました。私は2018年にセミナー講師としてお招き頂き、参加された皆様にお配りされた柏倉製菓の花豆おこわが美味しく、和やかな先生のお人柄を感じさせる贈り物でした。

医局の大先輩であり、昨年より公益社団法人日本女医会会長を務めさせて頂いているのも石原幸子先生や多くの先輩方の尽力によるものと認識しています。コロナ禍にて直接にお会いすることが難しくなったことが大変残念ですが、先生から託された使命を全うしたいと思っております。いつまでも、日本女医会を支えて頂いた石原幸子先生に深謝しご冥福をお祈り申し上げます。 合掌



水上バスでのひととき



創立百周年では閉会の辞を述べられた

## 国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association (MWIA)

24



## 西太平洋地域会議 2021 初のバーチャル開催は大成功！

National coordinator 前田佳子

COVID-19 パンデミックは日本国内では第5波を迎え、ほとんどがデルタ株に置き換わって猛威を奮っています。デルタ株の出現によってワクチンによる集団免疫は絶望的とされ、国民の8割以上がワクチンを接種したイスラエルでさえ、急速に感染が再拡大しています。一方でワクチン接種率がまだ低い台湾やニュージーランドでは、徹底した検査と隔離によって感染はコントロールされています。日本もこのマネジメントを見習ってもらいたいものです。

今回は国際女医会西太平洋地域会議の初めてのバーチャル開催が成功裏に終了しましたので報告させていただきます。

## 西太平洋地域会議

2020年10月8～10日に韓国・ソウルで開催予定であった西太平洋地域会議はCOVID-19 パンデミックの影響で2021年8月19～21日に延期となりました。パンデミック収束の目処が立たないため、最終的には8月20～21日にバーチャル開催という新しい形で実現することになりました。韓国女医会の多大な努力に心から感謝し、開催の成功にお祝いを述べたいと思います。

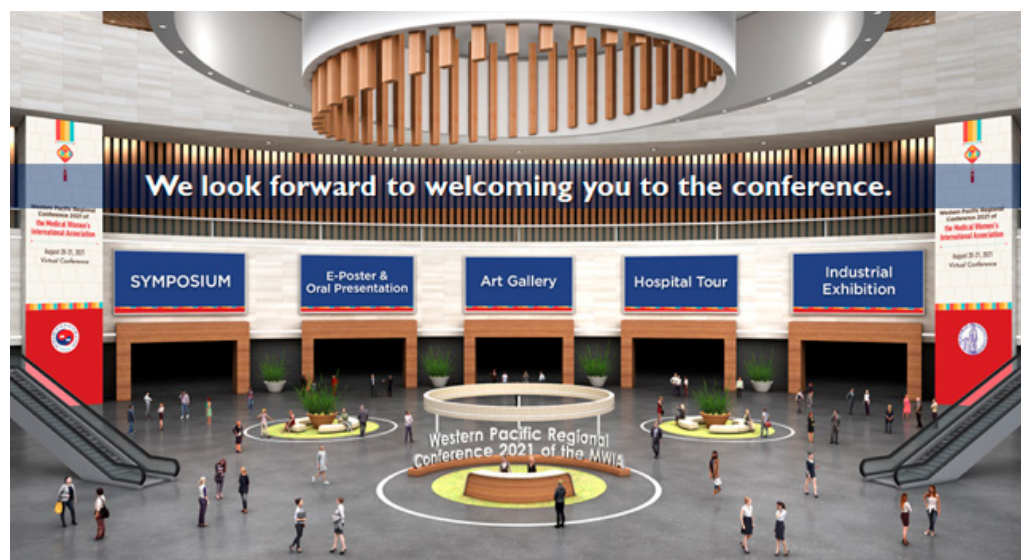
参加登録をしてくださった方は2021/9/27まで会議が視聴可能となっています。

## 第1日目 8月20日(金)

開会式に先立って9:00～10:30にSession 1 “Child and Adolescent Health for a Happy Childhood Life (幸せな子ども時代を過ごすための子どもと思春期の健康)”が開催されました。座長は韓国女医会のDr. Kang Sook Leeと私、前田佳子が務めました。演者は4人で、トップバッターは日本女医会の牛山元美先生が“Risk of Childhood Thyroid Cancer after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident (東京電力福島第一原子力発電所事故後の小児甲状腺がんのリスクについて)”を報告しました。ポイントは次の3つです。1) 放射線量が正確に測定されていなかったため、住民は放射線量の健康への影響をより懸念していた。2) 福島の甲状腺がんは放射線量の相関関係は否定されていますが、科学的な証拠がなければ認められない。3) 明らかな証拠がないのに、福島での甲状腺検査が過剰診断の原因になっていると主張し、検査を縮小すべきだと主張する人たちがいる。実際の症例を説明し、最後に「福島原発事故後の小児甲状腺がんは過剰診断や過剰治療とは結論づけられない。全てのがんを放っておけるわけではないし、小児甲状腺がんの自然史もよくわかっていない。被ばく量が正確に測定されていないため、被ばくと健康影響の相関関係を明らかにするには長期的かつ詳細な調査が必要である。」と締めくくりました。

2番目は韓国女医会のDr. Myong Soon Sung “Atopic Dermatitis (アトピー性皮膚炎)”、3番目は韓国女医会の

Dr. Bo La Kim “A Perspective on Game Addiction among Adolescent in the Educational Context (教育現場における青少年のゲーム依存症についての一考察)”、4番目は韓国女医会のDr. Eun Hee Ha “The Role of Women Physicians in Healthy Children's Life and Environment (子どもの健康な生活と環境の





ための女性医師の役割)”でした。ゲーム依存症の報告は興味深く、会場からの質問が殺到しました。このセッションに引き続いて開会式が行われ、多くの祝辞が寄せられました。

## 第2日目 8月21日(土)

10:30 ~ 12:30 に Session 4 “COVID-19 and Future Perspectives of Healthcare (COVID-19 とヘルスケアの未来像)” が韓国女医会前会長の Dr. Bong Ok Kim と西太平洋地域副会長でオーストラリア女医会の Dr. Desiree Yap の司会で行われました。

引き続き西太平洋地域のビジネスミーティングが開催され、今後の西太平洋地域の活動や来年開催される国際女医会議について意見交換と情報交換を行いました。

私は口演 “Report on the results of a survey of the impact of the spread of COVID-19 infection on urologists in Japan (日本の泌尿器科医に対する COVID-19 感染拡大に伴う影響調査結果の報告)” で COVID-19 の感染拡大が本邦の泌尿器科医の日常にどの程度影響を及ぼしているか、現状および問題点を把握し、これからの対策の一端とする

べく日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会で行った緊急アンケート調査の結果を報告しました。光栄なことにベストプレゼンテーション賞をいただくことができました。

2022年には台湾で国際女医会議が予定されています。台湾はコロナ感染をコントロールできていますが、現地開催ができるか否かは世界の状況を見極めなければなりません。最新の情報が入り次第お伝えいたします。



新連載

会員だより 北から  
南から

長野支部 上條順子

# 天下第一の桜



コロナ禍でこの2年、実家である信州・高遠でのお花見ができなかった。実家を離れ約50年、毎年4月2週目頃の日曜日の花見は欠かしたことがなかった。

大学時代は友人と、医局時代は先生方と、結婚後は家族や親戚と。最近では孫らと。

同じ桜でも毎年違う花に感じるのが不思議である。高遠城址公園に咲き誇る1500本の桜の樹林「タカトウコヒガンザクラ」は赤味をおびた可憐な花で、ピンクに染まった桜の雲海は、城址公園を埋め尽くし、遠くからは南アルプス仙丈ヶ岳と重なり合い、見事な被写体となる。

高遠城は戦国時代、城主は武田氏一族が務めた。かつては、馬の姿が桜の花に埋もれて隠れていたという高遠藩の桜の馬場。明治4年、廃藩置県によって高遠城は取り壊しとなり、この場所は荒地となった。明治9年、これを見かねた旧藩士たちは城跡に馬場の桜を植樹し、公



園として整備したのがことの始まりである。昭和35年、高遠のコヒガンザクラは、長野県の天然記念物に指定され、平成2年には、日本さくらの会の「さくら名所百選」にも選ばれている。見頃は4月上旬～中旬で、満開時には公園全体が薄紅色に染まり、約20万人の観光客が訪れる。井上靖の小説「化石」にも信州「高遠の桜」についての記載があり、後に映画化され、佐分利信が主役を務めたのだが、伊那市観光用ポスターでみかける「桜雲橋」が登場している。

一生に一度は訪れて欲しい特別な場所といえる。ステイホームの今は、YouTubeでの映像を見て頂ければその美しさに瞬間に魅了されるであろう。全国往来が自由になった暁には、是非足を運んで、五感で味わって頂きたい。信州の雄大な自然に囲まれ、濃厚なこし餡が評判の高遠(桜)饅頭の塩味をアクセントに、思い出話に花が咲くことを願いつつ・・・。

左上の写真資料提供: ©伊那市観光協会

# J M W A R C H I V E S

## 日本女医会 アーカイブ #012

### 英領馬來からの手紙 ①

日本女医会雑誌 第20号  
大正12(1933)年12月刊

日本女医会雑誌が発行された大正時代は、自由主義的な風潮の拡大とともに、日本人の海外への進出も本格的になった時期でもありました。日本女医会雑誌にも、井上友子をはじめとして、海外の会員からの寄稿が掲載されております。

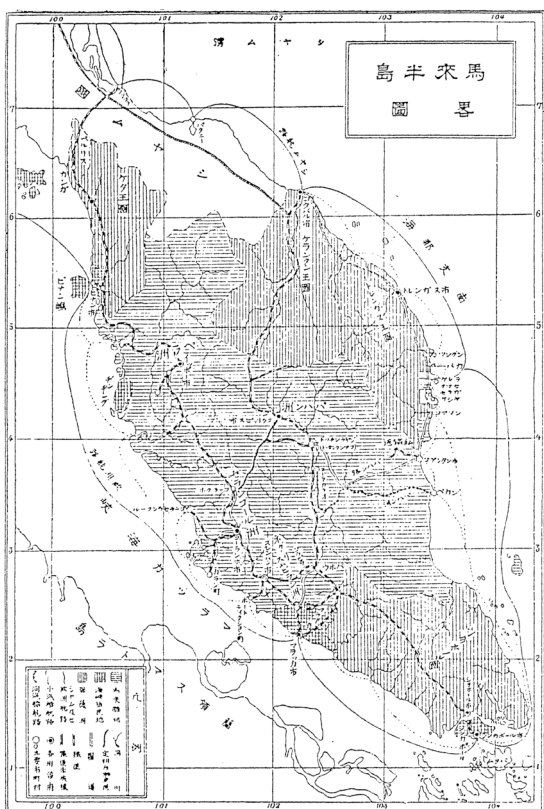
今回と次回は、マレー半島西部のスレンバン市で開業をしていた、大貫せつ子会員からのレポートを2部に分けてご紹介いたします。なお、原稿中の用語・語句につきましては、当時のままとさせて頂いておりますので、ご了承下さい。

### 英領馬來半島に赴いてみて

委しい事は地理學上でお分かりでせうが、馬來半島は亞細亞大陸の最南端に位し印度洋の怒濤と支那海の狂瀾とを左右に刻ね返すと云はれて居る海洋の一大關所でありまして、對岸のスマトラ島と共に支那海と印度洋とを仕切つて居ます。

馬來半島の所謂英領馬來は、新嘉坡とピナンの二島と、半島馬拉加海峽岸のウエスレー、ジンゲン、馬拉加的純英領たる海峡植民地、ネグリスマラン、セランゴール、ペラ、パハン四州聯邦の準英領、ジョホール、ケダ、ペルリス、ツレンガヌ、ケランタンの五保護領の總稱です面して馬來半島は世界に於ける護謨と錫との大産地としてあります。

幾百千の船舶を吞吐しては世界中に偉大なる能力を發揮して居る新嘉坡は貿易港として花々しい處だと聞いて居ましたが、初めて見た私の眼には只々奇觀の新嘉坡として映じました。海岸に沿ふて人家櫛比する繁華な大市街を見ると一時はあつと驚かされたものでしたが實際船の上から眺めた時は成程世界の人種博覽會場であるかの如くつくづく考へました。



新嘉坡グダンには帝國總領事館を始め各銀行、各汽船會社、及び大商店等數十軒ありまして晝間は千變萬化の商況に喜怒する支配人や店員の馬車や自動車は幾百臺も織るが如くに馳せ交ふてゐます。道路が完全ですから日本の様に自動車の不便は感じません、其他支那人の車夫町といふのが中々有名ですが日本人町といふものも有名です。

先づ日本人會を始め青年會、栽培協會、商品陳列館、新聞社、雜誌社、活版所、醫院、藥房、齒科醫、佛教宣布所雜貨、呉服陶器、食料、玩具、書籍、鐵工所、ホテル、貸自動車、洗濯、大工、料理、藝者、遊女、等數へ上ぐれば第一階級から第四階級までの男女が日本固有の風俗と習慣を露骨に發揮して半永住民として地盤を築き上げつゝあるのです。

砂塵の多い新嘉坡を發車し護謨園や椰子林やバインアップル畑の間を過ぎてウツドランドという驛に着くと、テブローといふ海峡の水が碧々として居る其對岸にあるのが、名の知れた王國の都ジョホールバルであります。

### 首府スレンバン市

西部半島の首府スレンバン市はグリスマラン州の西南に位して居る植林園即ち護謨園の都であり人口凡そ三百餘の新市街であつて馬來に於ては交通の要路となり、新嘉坡からは二百哩ばかりあります。

實際スレンバンは前記の如く植林の都でありまして商業地たる新嘉坡の様な華麗な所もなく政治の都と云はれて居るコーランポーの如き活氣もありません。只々こゝは護謨を生命とするだけに住民の一般は非常に質素な割合にどことなくのんびりとして居る様に思はれました。支那人はスレンバン市を漢語で芙蓉と呼んで居ます。當市は實に平凡極まる都會であります電燈も全市の半分位しかなく残りはランプを用ひて居ます。

～中略～

さびしい停車場の前には廣い芝生の空地がありそこには白人のクラブが一軒ありました其他鐵道官舎、倉庫、レストハウス、ホストオフィス等がありました、そこから二三丁ばかり行くと市街になつて居ます其十字街には常に數十臺の辻自動車が集合して客を呼んで居ますがこれ等はすべて田舎に通ふのでありましてその自動車が往復する近郷近在には富裕繁昌の村落が澤山にあります、運轉手は馬來人、印度人、支那人が主でありますが稀に日本の青年も居ました。

～中略～

日本人の住んで居る家は皆印度人や支那人等からの借家ですそれがあちこちに散ばつて居ます、總人員二三百しかありませんから外出しても邦人に出逢ふことが極めて稀ですから支那人の如く目立ちません。日本の男子は皆南洋式の洋服ですから途中で出會つても支那人と思ふことが初めの内は多くありましたが、一年位になりましてから



は住所も姓名も職業も皆分る位少数であることが心細く分るのでありました。

～中略～

邦人の活動範囲としては新嘉坡に比すれば實に小さなものです、醫院、齒科、雜貨商、ホテル、理髮業、飲食店、寫眞業、會社員、護謨園經營者、其従業員、大工、妓樓、等でありました。

～中略～

當市の日本醫院では有資格者が三名無資格が三名ばかり開業して居ましたが何れも相當に流行して居ました。

熱帯地の病院としては當市から離れた田舎の小高き山の上に建てられてある政府の病院ひとつでした。平家の熱帯式建築でありまして病室には常に患者が満員して居ました、手術室などは廣く出来て居ました。私は時々患者を送つたり、手術を頼んだりする爲に行きました。院長は英國人ですから手術法はすべて英國式、醫員は新嘉坡の醫學校出身の印度人が大部分を占めて居ます。看護婦や産婆は英國人と印度人の様でした、私は幾度も内部を視察に参りました。最後に死體室と解剖室を見ました。解剖臺には印度人の死體が一個のせてありました。次の室には拾個ばかり死體が長々ところがしてありました。番人に聞きましたら多い時はもつと澤山並ぶと申ました。其の日は丁度日本人會から通知のあつたばかりの護謨園従業員で酒吞の男が心臓麻痺で死んだのが黒い印度人の中に加はつて居ました。

市の郊外に近い空地に日本人共同墓地がありました、異郷の空で我同胞の死といふことに對しては實に悲痛に感じさせられました、生

現在のスレンバン駅の様子



前の境遇如何にかゝらず其地の邦人一同が熱心に葬式を営むことに於ては私は美風であると思ひました、私の特に會葬したのは會社の社員もありましたが其半数はあはれな女郎でした、柩を曳いて行く人は白衣を着た女郎です、墓地には凡そ二百ばかりの佛がありました、あはれな無縁佛もありますが其多くは日本娘が荒流離の果てこの地の土とくち果てたものでありました。實に哀れな者だと涙ぐみことも幾度ありました。

大貫せつ子（旧姓内田）は、日本医学校卒業、明治 43（1910）年 7 月に医籍登録。その後、婦人共立育兒会病院の勤務を経て、大正 8（1919）年 11 月に、当時スレンバンで開業をしていた大貫公光医師に嫁ぎ、当地で医療に従事しています。マレーシアからの帰国後は、夫君とともに東京の世田谷において京王病院の経営にあたつたほか、日本女医会の評議員を務め、昭和 50（1975）年に永眠されたとの記録が残っています。

（文中敬称略・引用箇所は一部常用漢字の表記としました。文責：広報部）



## 醫の肖像—日本大学医学部コレクション

日本大学医学部同窓会（編） 発行：櫻醫社 発売：人間と歴史社 定価：2500 円＋税

練馬支部 角田由美子

と言うシリーズで同窓新聞紙上に、一回に一話を写真と文章で紹介されている。本書はそれらの中から 76 編を取り上げ、加筆調整されたものである。

まずヒポクラテス。BC460 年ギリシャのコス島に生まれ 100 歳前後まで生きたといわれる。「ヒポクラテスの誓い」は皆様よくご存じと思う。「ヒポクラテスの木」の子孫が東京大学の医学部図書館前にある。

本書は、彼に始まりコッホ（1843～1910）に至るまで、日本に伝来した中国医学、オランダに始まる西洋医学等、それらを学んだ日本の医学者達や書籍の名前、名前だけは皆に記憶されている様なそれらが、時代を追ってエピソードを加え写真付きで紹介されている。日本の医学中興の祖と言われる曲直瀬道三（1507～1594）。彼は養生対策として、気を尽くしたときは花を眺め、茶の湯をおこし遊びを催すこと、食物は塩噌をうすくし……、と延べている。本草綱目 52 卷は李時珍

（1518～1593）により編纂された。この書は日本語を初めとして諸外国語に翻訳され大きな影響を与えている。

1500 年頃には湯屋外科、床屋外科等の言葉が見られる。お富さんの歌で有名になった玄治店の岡本玄治は徳川家三代の將軍の侍医を務めている。江戸の三大外科医と称される吉雄耕牛、杉田玄白、華岡青洲、この三名についてもくわしい記述がある。女医会誌 242 号で杉田玄白（1733～1817）の子孫である杉田つる氏の話がアーカイブとして掲載されていたが、杉田玄白が世に出した解体新書は、史料室に常設展示されている。

彼は罪人の腑分けに立ち合い、クルムスのターレリアナトミアに間違いがないことを確認している。

医学史に興味がある方には読んで頂きたい書である。一つ一つの事柄がよく調べられていて、軽い読み物としても面白い。

日本大学医学部図書館史料室には、大学創設以来多方面から寄贈された、数多くの貴重な古医学資料「書籍、内外の著名人の写真、絵画など」がある。これらは順天堂大学の酒井シズ先生らの努力で、1979 年に日本大学医学部図書館古医学資料目録として発刊されているが、知る人は少ない。

これらの「貴重な資料を風化させてはいけない」という日大医学同窓新聞編集委員会の思いから、宮川美知子先生が担当され、「知っていますか？医学部史料室」

公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))  
2020年度第7回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2021年3月20日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
  - 1) 出席者
 

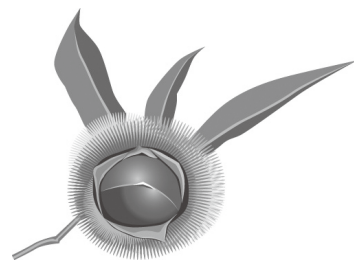
|         |       |
|---------|-------|
| 理事 大谷智子 | 花岡和賀子 |
| 馬場安紀子   | 青木正美  |
| 磯貝晶子    | 木村友美  |
| 中田恵久子   | 樋渡奈奈子 |
| 藤谷宏子    | 村上京子  |
| 芳川た江子   |       |
| 監事 沖村英佳 | 前田佳子  |
  - 2) 欠席者
 

|      |      |
|------|------|
| 塚田篤子 | 野村明子 |
|------|------|

## 2. 継続審議事項

1. 第66回定時総会について  
(馬場副会長・芳川理事)(継続)  
・5月16日当日の全体のタイムテーブルについて確認を行った。  
・各賞の表彰式もZOOMで行うこととし、受賞通知にその旨記載することとした。  
・2021年度功労会員・永年会員については3月末の入金確認後に理事に配信する。
2. 2021年度ブロック懇談会について  
(継続)  
本議題は、引き続き継続審議事項となった。
3. 茨城支部の支部資金について (承認)  
大谷会長より、本資金は茨城支部に支部の活動資金として返還することとした旨報告があった。
4. 千葉支部資金について (地域活性化基金規程案) (継続)  
大谷会長より、千葉支部からの寄付金については、「地域活性化基金」とし、規程に基づきブロック懇談会等の支部・地域の活性化に活用することが提案された。
5. 乳腺外科医の冤罪事件への対応について (継続)  
前田監事より、今後の対応については、現在すでに活動を行っている既存の団体に加盟し支援活動を行うことが提案され、次回理事会において団体の資料等に基づいて審議することとなった。
6. 日本女医会創立120周年関連事業について (継続)  
本議題は、引き続き継続審議事項となった。
7. 2021年度理事会開催日程案について (承認)  
2021年度理事会開催日は、1月17日の2020年度第6回理事会の資料の通りで承認された。
3. 審議事項
  1. 役員選出に関する規程の一部改訂について (大谷会長)(承認)  
大谷会長より、資料に基づき規程の一部改訂の提案があり、討議の結果、再度審議を行うこととなった。
  2. 今後の公開講演会の活動について (承認)  
大谷会長より、今後の公開講演会の開催方法について、ZOOM等を使用したオンラインでのライブ、あるいは録画の配信も検討することが提案され承認された。また、併せて講演会開催までの作業プロトコルが提案され、承認された。
  3. 国際婦人年連絡会 分野別委員会の登録について (承認)  
前田監事より、各理事へ国際婦人年連絡会の分野別委員会への登録の呼びかけがあり、希望者は事務局まで連絡をすることとなった。
  4. 2021年1月、2月会計報告承認 (承認)  
2021年度1月、及び2月の会計報告が承認された。
  5. 2020年度第6回理事会議事録承認 (承認)  
2020年度第6回理事会議事録が承認された。
  6. 1月臨時メール審議議事録承認 (承認)  
2020年1月に行われたEメールによる審議の議事録が承認された。
  7. 新入会員について (承認)  
2021年1月14日から3月15日の新入会員1名が承認された。
  8. SNS担当部への昇格について (承認)  
大谷会長より、IT部を新設し、SNS担当理事の青木理事を部長に昇格することが提案され承認された。
4. 報告事項
  1. 各部、NC報告
    - 1) 庶務部報告  
・芳川理事より、資料に基づき会員動静について報告があった。
    - 2) 広報部報告  
・樋渡理事より、会誌242号の進捗状況について報告があった。
    - 3) 学術部報告  
・磯貝理事より、第41回学術研究助成、第6回溝口昌子賞、第3回山本穠子賞の選考結果が報告された。
  - 4) ナショナルコーディネータ報告
2. 各委員会報告
  - 1) 男女共同参画事業委員会  
・磯貝理事より、今年度の講演会は10月を予定している旨報告があった。
  - 2) 長寿社会福祉委員会  
・馬場副会長より、2月21日に開催された2020年度長寿社会福祉事業講演会についての報告があった。参加者：50名 アンケート回収数：29
  - 3) 女性の健康支援事業委員会 (樋渡理事)  
・樋渡理事より、2月7日に開催された2020年度女性の健康支援事業講演会についての報告があった。参加者：90名 アンケート回収数：56  
・2021年度の講演会の開催は11月を予定している旨の報告があった。
  - 4) 小児救急事業委員会  
・中田理事より、将来的にはYoutube等の動画配信サービスを利用した事業を行いたい旨の報告があった。
3. 対外的団体活動
  - 1) 国際婦人年連絡会  
・前田監事より、1/20、2/17、3/7に常任委員会が開催された旨報告があった。そのほかに1/31、3/11、3/17にオンラインでセミナーが開催された旨の報告があった。
  - 2) 国連 NGO 国内女性委員会  
・2/25に役員会開催。
4. その他  
・前田監事より現代ぷろだくしょんの次回作映画に対する寄附についての呼びかけがあり、次回理事会において日本女医会からの寄附を行うかを審議することとなった。

以上



# 公益社団法人日本女医会 (((理事会議事録)))

## 2021年度第1回理事会議事録

### 1. 日時・場所

1. 日時 2021年4月17日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
  - 1) 出席者
 

|         |       |
|---------|-------|
| 理事 大谷智子 | 花岡和賀子 |
| 馬場安紀子   | 青木正美  |
| 磯貝晶子    | 木村友美  |
| 塚田篤子    | 中田恵久子 |
| 野村明子    | 樋渡奈奈子 |
| 藤谷宏子    | 芳川た江子 |
| 監事 沖村英佳 | 前田佳子  |
  - 2) 欠席者  
村上京子

### 2. 継続審議事項

1. 第66回定時総会について (承認)
  - ・ 総会のタイムスケジュールについて  
資料に基づき芳川理事より説明があり、総会当日のスケジュールの確認が行われた。
  - ・ 支部・本部連絡会について大谷会長より支部・本部連絡会の開催方法についての説明があり、今後は開催にあたって各支部長、もしくは支部の代表者に開催案内を送付することとなった。  
また、各支部への連絡は担当理事が行うとし、下記3点が承認された。
    - ① 支部・本部連絡会議案
    - ② 支部・本部連絡会出欠ハガキ案
    - ③ 支部担当理事
  - ・ 功労会員・永年会員について  
芳川理事より今年度の永年会員について説明があり、14名の永年会員が承認された。
2. 2021年度ブロック懇談会について (継続)
 

本件については、詳細が未定のため継続審議となった。
3. 公益的事業地域活性化資金規程について (承認)
 

大谷会長より資料に基づき説明があり、公益的事業地域活性化資金規程が承認された。
4. 乳腺外科医の冤罪事件への対応について (承認)
 

本件について磯貝理事より説明があり、日本女医会「外科医師を守る会」への団体加盟が承認された。詳細は磯貝理事が確認。
5. 日本女医会創立120周年関連事業について (継続)

大谷会長より、本件は継続審議とする旨が伝えられた。

### 3. 審議事項

1. 国連 NGO 国内女性委員会の2021年度の役員登録について (承認)
 

前田監事より国連 NGO 国内女性委員会の2021年度の役員登録について説明があり、大谷会長、前田監事、磯貝理事を登録することが提案され、承認された。
  2. 2021年3月会計報告承認 (承認)
 

2021年3月の会計報告が承認された。
  3. 2020年度第7回理事会議事録承認(庶務部) (承認)
 

2021年度第7回理事会議事録が承認された。
  4. 3月臨時メール審議議事録承認 (承認)
 

2021年3月に行われたメール審議について以下を修正することで承認された。  
監事全員により異議なし → メール審議を行うことにつき監事からの異議はなかった  
本項を提案し、理事及び監事と議事録の作成に係る職務を行った理事は、次に記名押印する。 → 本事項を提案、及び議事録に係る職務を行った理事は、次に記名押印する。
  5. 新入会員について (承認)
 

2021年3月16日から4月15日の新入会員4名が承認された。
  6. 2020年度事業報告および決算諸表の監査について
 

大谷会長から、監査が終了した旨報告があった。
- ### 4. 報告事項
1. 各部、NC 報告
    - 1) 庶務部報告
 

・ 芳川理事より会員動静について報告があった。
    - 2) 広報部報告
 

・ 樋渡理事より会誌242号の進捗について報告があった。
    - 3) IT 部報告
 

青木理事、磯貝理事、木村理事より IT 部就任についての挨拶があった。
  - 4) ナショナルコーディネータ報告
 

前田監事より現在国際女医会西太平洋会議では2か月に1回のミーティングが行われており、各国が自国の活動について報告している旨の報告があった。  
第32回の西太平洋地域会議は2022年6/24から6/26の日程で、

台湾が主幹国となって開催される。

また本年の西太平洋地域会議は、韓国女医会主催で8/20-8/21にバーチャル会議形式で開催される旨の報告があり、参加の呼びかけがあった。

### 2. 各委員会報告

#### 1) 男女共同参画事業委員会

磯貝理事より、今年度の講演会の講師に元労働官僚の村木厚子氏を候補としている旨報告があった。

日程は10月、開催方法は録画配信を予定。

#### 2) 長寿社会福祉委員会

馬場副会長より、今年度の講演会の開催は11月から12月を予定している旨報告があった。開催方法は現在のところオンラインを予定。

テーマは、認知症、高齢者の睡眠障害などを予定。

#### 3) 女性の健康支援事業委員会

樋渡理事より、今年度の講演会の開催は長寿社会福祉講演会の後を予定している旨報告があった。

青木理事から、講演会のインターバルを2か月程度考えたほうがよい旨の提案があり、同委員会の講演会は、2月前半の開催を視野に入れることとなった。

#### 4) 小児救急事業委員会

中田理事より、小児の養育環境などについてのオンラインの講演会などを実施したい旨の発言があった。これに対して大谷会長より、講演会ではなく、Youtubeでの配信などの方法を取るほうが得策ではないかとの意見が述べられた。

### 3. 対外的団体活動

#### 1) 国際婦人年連絡会

前田監事より5/27に総会がオンラインにて開催予定であるほか、同会の活動についての報告があった。

#### 2) 国連 NGO 国内女性委員会

4/8にオンライン会議を開催。総会は7/15に開催予定。

### 4. その他

#### 1) 現代ぶろだくしょんへの寄附について

現代ぶろだくしょんへの日本女医会からの寄附について次回理事会の審議することとなった。

以上



## 公益社団法人日本女医会

## (((理事会議事録)))

## 2021年度第2回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2021年6月19日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
  2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
  3. 出欠席者
- 1) 出席者
- |    |       |       |
|----|-------|-------|
| 理事 | 大谷智子  | 花岡和賀子 |
|    | 馬場安紀子 | 青木正美  |
|    | 磯貝晶子  | 木村友美  |
|    | 塚田篤子  | 中田恵久子 |
|    | 野村明子  | 樋渡奈奈子 |
|    | 藤谷宏子  | 村上京子  |
|    | 芳川た江子 |       |
| 監事 | 前田佳子  |       |
- 2) 欠席者
- 監事 沖村英佳

## 2. 継続審議事項

1. 2021年度ブロック懇談会について (青木理事) (継続)
  - ・青木理事より、1支部に関わらず、関東エリア等の大きな範囲での開催を考えてはいるが、現在のところ具体的な案は未定との報告があった。
  - ・大谷会長より、鳥取支部の松田隆子会員から鳥取での開催も検討できるとのお話があった旨報告があった。
  - ・馬場副会長より、各選挙区などをまとめた開催もよいのではないかと提案があった。
2. 日本女医会創立120周年関連事業について (馬場副会長) (継続)
  - ・馬場副会長より100年史の追補版作成を考えている旨の報告があった。
  - ・大谷会長より、現段階では式典の開催は考えていない旨が述べられた。
3. 乳腺外科医冤罪事件へのサポートについて (磯貝理事) (承認)
  - ・磯貝理事より、前回理事会において決定した「外科医を守る会」に入会をした旨報告があった。会費は任意のため会としての会費は払わない。また、日本女医会HPに署名のお願い等のリンクを貼ることが承認された。
4. 現代ぶろくしょんへの協力金について (馬場副会長) (承認)
  - ・日本女医会本部資金から5万円、役員慶弔費から5万円の計10万円の支出が承認された。

## 3. 審議事項

1. 第66回定時総会の報告と反省 (承認)
  - ・芳川理事より、第66回定時総会の

報告があった。

- ・青木理事より、次回の開催に向けて、開催方法を検討していく旨の報告があった。
2. 第67回定時総会について (継続)
    - ・芳川理事より、第67回定時総会についてコロナの感染状況の如何に関わらず、会場での開催を同時中継するかたちでの開催を考えている旨の報告があった。
    - ・大谷会長より、今後も同時開催の講演会はZOOMで行うことを検討すると同時に、事前の宣伝を前倒した方がよいとの提案があった。
  3. 2021年4月、5月会計報告承認 (承認)
    - ・塚田理事より、資料に基づき2021年4月、5月の会計報告があり承認された。
  4. 2021年度第1回理事会議事録承認 (承認)
    - ・野村理事より、2021年度第1回理事会議事録について説明があり、承認された。
  5. 6月臨時メール審議議事録承認 (承認)
    - ・大谷会長より説明があり、以下を削除の上審議をし、承認された。  
「以上の通り～押印する」
    - ・前田監事より、メール審議に関する監事の関わりについて質問があったため、再度本理事会に於いて審議し、承認とした。また、今後のメール会議の開催については、その都度開催の是非を監事に問うこととした。
  6. 新入会員について (承認)
    - ・4月16日の新入会員1名が承認された。
  7. その他
    - 1) 役員慶弔費の徴収について (承認)
      - ・役員慶弔費、及び役員費について馬場副会長から説明があり、昨年度徴収しなかった慶弔費を集めることが提案され、遠方の理事については事務局から振込用紙を送付することとなった。

## 4. 報告事項

1. 各部、NC報告
  - 1) 庶務部報告
    - ・会員動静
      - ・芳川理事より動静について報告があった。
  - 2) 広報部報告
    - ・樋渡理事より会誌243号について報告があった。
    - ・受賞者の顔写真を掲載する。
    - ・各地からの寄稿記事を掲載する。
    - ・前田監事より国際婦人年連絡会実施の政党アンケートを掲載の提案があり、本件については次回理事会での

審議事項となった。

- 3) 学術部報告
  - ・磯貝理事よりHPの現在依頼中の件がある旨報告があった。
- 4) IT部報告
  - ・青木理事より、HPのリニューアル、ネットラジオでの医療情報の配信を検討中である旨の報告があった。
- 5) ナショナルコーディネータ報告
  - ・韓国主催の西太平洋地域会議(バーチャル)について
    - ・前田監事より、演題登録が7/19まで延長になった旨報告があった。
    - ・参加登録の早割の受付は8/6まで。
  - ・オンライン会議について
    - ・6/5に開催した。今回は香港が担当。現在失効状態のNGOの再取得にむけて運動を継続中の旨報告があった。
2. 各委員会報告
  - 1) 男女共同参画事業委員会
    - ・磯貝理事よりキャリア・シンポジウムを10/30頃に開催予定との報告があった。講師は、元労働官僚の村木厚子氏に依頼済みで、10/16に収録予定。
  - 2) 長寿社会福祉委員会
    - ・馬場副会長より、今年度の講演会の日程は、男女共同参画事業委員会講演会の日程を踏まえて決定する旨報告があった。
  - 3) 女性の健康支援事業委員会
    - ・樋渡理事より、今年度の講演会は2022年2月開催予定である旨報告があった。内容は未定。
  - 4) 小児救急事業委員会
    - ・中田理事より、オンライン講演会の実施、またはYoutubeでの配信を検討中である旨報告があった。
3. 対外的団体活動(前田監事)
  - 1) 国際婦人年連絡会
    - ・前田監事より、全体会及び総会(5/27)について報告があった。その他、要望書について報告があった。内閣府男女共同参画局長に手渡しする予定。
    - ・常任委員会について
      - ・6/16開催。東京電力福島第一原発汚染水海洋放出の方針に対する抗議、中学歴史教科書従軍慰安婦の記述に関する要望書、ミャンマーのクーデターに関する要望書等を政府に提出した旨の報告があった。
  - 2) 国連NGO国内女性委員会
    - ・7/15総会開催予定(ZOOM)
4. その他
  - 1) 『私たちが止めるしかない東京オリパラ』について、前田監事より活動の報告があった。

以上

# 健やか親子21

## ホームページ

健やかな子育てを応援する

妊娠

出産

子育て

に関わる人のための情報サイト



健やか親子21とは

皆さんで、子どもが健やかに育つ  
社会を築くための取組です。

「健やか親子21推進協議会」は、  
この取組が多くの人に伝わるように  
普及啓発を推進しています。



チェックしてね!!

健やか親子21

検索



**妊娠や出産**をむかえるワタシが  
知っておいたほうがいいコトがあるの

——妊産婦の食事について（ドクターインタビュー）



**子育て**に悩んでいるママに  
知ってほしいコトがあるんだ

——子育ての悩みについて（リーフレット）



**思春期**のボクたちが悩んでいるコトを  
お父さんやお母さんに知ってほしいんだ

——思春期アンケート調査（解説）



健やか親子21の取組に賛同する専門団体や職能団体が連携して、  
妊娠・出産・育児に関わる人のための、様々な情報をお伝えしています。

**健やか親子21推進協議会**



## 第 42 回 日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成 24 年 4 月に公益社団法人に移行いたしましたので、第 33 回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。また、平成 28 年度からは、山崎倫子氏のご遺志により寄附された基金 1,000 万円から、若手医師の研究助成を行う「山崎倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された 1 名に山崎倫子賞を授与いたしております。

### 記

1. 助成の趣旨 後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。
2. 助成金額 1 件 30 万円まで、採択件数は 3 件以内。うち優秀と判断された 1 件には山崎倫子賞として、50 万円を助成する。
3. 申し込み手続き
  - 1) 応募資格
    - ①申請締切時において満 45 歳未満の日本国内在住の女性医師。
    - ②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。
    - ③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求めることがある。
  - 2) 助成期間 原則 1 年間。同一人が重ねて申請をする場合は 5 年以上の間隔をおくこと。
  - 3) 応募方法 日本女医会ホームページ (<http://jmwa.or.jp/joseikin.html>) より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：(公社) 日本女医会 office@jmwa.or.jp
  - 4) 申込期限 2021 年 12 月 25 日必着。
  - 5) 選考及び発表方法 選考委員会において選考の上、日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。
  - 6) 助成金の贈呈 2022 年 5 月 15 日開催の第 67 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
  - 7) 被授与者の本会に対する報告
    - ① 2023 年 9 月 8 日までに研究経過報告書（日本女医会誌掲載用）と収支報告書を提出。また、ホームページ「学術研究助成受賞者の軌跡」欄 (<http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html>) にも寄稿することを承諾する。
    - ②被授与者は、本助成金授与後 3 年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の別刷 10 部を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。
  - 8) 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

## 第 7 回 公益社団法人 日本女医会 学術研究助成 溝口昌子賞

平成 25 年に逝去された故溝口昌子先生のご遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。

### 記

1. 助成の趣旨 女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。
2. 助成金額 1 件 30 万円とし、原則毎年 1 名に授与する。
3. 応募資格 申請時に満 55 歳未満で、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国内在住の女性医師（教授は除く）。
4. 提出書類
  - 1) 所定の様式の履歴書
  - 2) 研究に関する自著を含む共著論文 2 編
  - 3) 公益社団法人日本女医会会員（選考委員を除く）2 名の推薦状
  - 4) 誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記）
  - 5) 業績目録
 以上の書類を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
5. 申込期限 2021 年 12 月 25 日（当日消印有効）
6. 表 彰 2022 年 5 月 15 日開催の第 67 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行う（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
7. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局 (担当：学術部)



## 日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集致しますので、募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申し上げます。

### 募集要項

1. 対象 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡彌生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
2. 候補者の推薦 日本女医会員による推薦が必要である。
3. 提出書類 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。
4. 申込期限 2021 年 12 月 25 日（当日消印有効）
5. 選考及び発表 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
6. 表彰 2022 年 5 月 15 日開催の第 67 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、記念メダルおよび副賞を授与する。副賞は 5 万円とする（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
7. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：事業部）

## 日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

1. 対象 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各1名に授与する。  
1) 医学に貢献した女性医師 2) 社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。
2. 候補者の推薦 日本女医会員2名以上の推薦が必要である。
3. 応募方法 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局まで簡易書留にて郵送する。  

業績目録

  - 1) 「医学に貢献した女性医師」に応募の方
    - 査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者 3 編以上を含む 5 編の全文
    - 上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者 7 編以上を含む 10 編の論文名、著者名と抄録
  - 2) 「社会に貢献した女性医師」に応募の方
    - 国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書
  - 1) 2) に共通の業績
    - 国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等
    - 国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日
4. 申込期限 2021 年 12 月 25 日（当日消印有効）
5. 選考及び発表 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。
6. 表彰 2022 年 5 月 15 日開催の第 67 回日本女医会定時総会（東京都内にて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞 20 万円を授与する（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
7. 問い合わせ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：庶務部）

## 第 4 回 山本續子賞のご案内

平成 29 年に逝去された山本續子元会長のご遺志により寄附された基金を元に設立された山本續子賞の募集を本年度より開始致します。この賞は、若手女性医師の海外におけるグローバルに活躍する女性医師をサポートする助成制度です。希望者は下記の要項にしたがってご応募下さい。

### 募集要項

- 1. 対 象** 申請時に満 45 歳未満で、大学病院または総合病院などに常勤医として勤務しており、1 年以内に海外留学または海外学会報告などの学術活動を行っている、または 1 年以内に行う予定の日本国に在住している女性医師（教授は除く）。臨床・基礎医学の別は問わない。
- 2. 助成金額** 原則 一人あたり 10 万円
- 3. 申し込み手続き** 1) 下記の書類を揃えて公益社団法人日本女医会事務局まで郵送  
 ①申請書と履歴書（<http://www.jmwa.or.jp/yamamoto/yamamot.php> より所定の用紙をダウンロードして作成して下さい） ②学会の抄録 ③研究に関する自著を含む共著論文 2 編 ④日本女医会会員（選考委員を除く）2 名の推薦状 ⑤提出書類に関する誓約書（申請内容に偽りのない旨を明記） ⑥業績目録  
 2) 受付期間 2021 年 4 月 1 日～12 月 25 日
- 4. 授 与** 2022 年 5 月 15 日開催の第 67 回定時総会（東京都内にて開催予定）にて行う（会場までの交通・宿泊費は本人負担）。
- 5. 問い合わせ先** 公益社団法人日本女医会事務局（担当：学術部）

## 会員動静

（2021 年 4 月 1 日～8 月 26 日現在・敬称略）

|    | 氏 名   | 支部 | 卒年      |    | 氏 名   | 支部 | 卒年      |
|----|-------|----|---------|----|-------|----|---------|
| 入会 | 長田しをり | 葛飾 | 昭和 61 年 | 入会 | 藤岡真知子 | 長崎 | 平成 26 年 |
|    | 大鳥千枝美 | 北  | 平成 5 年  | 退会 | 18 名  |    |         |
|    | 渋川洋子  | 大阪 | 平成 6 年  | 物故 | 石原幸子  | 練馬 | 昭和 30 年 |
|    | 丸山会里  | 大阪 | 平成 15 年 |    | 永峰知子  | 岡山 | 昭和 58 年 |
|    | 山崎章子  | 大阪 | 昭和 55 年 |    |       |    |         |

### 編集後記

多くの医療従事者が開催に異議を唱え、医療崩壊が危惧される中、緊急事態宣言のもと、東京 2020 は開催されました。その後も新型コロナ感染者の増加は続いております。しかしながら、限られた条件の中、世界中のアスリート達の活躍は素晴らしく、特に日本のアスリートの健闘に感動いたしました。今後、オリンピックの精神に立ち返り、開催の是非も含めて、時間が検証してくれるのを待ちたいと思います。会誌の発行も WEB での打ち合わせが続いておりますが、今期はかねてより温めておりました企画を開始いたしました。会員の親睦・交流を目的に、各地の会員の皆様に、ご当地ならではのお薦めの名所・旧跡やお気に入りの店舗等、また、ご自身の歩まれてきた軌跡、印象に残るエピソード等……内容に制限なく、自由に投稿していただく『会員だよりー北から 南からー』です。第 1 回目は日本のほぼ中央に位置する長野県からです。軽井沢セミナーで河野直子長野支部長と共に世話役をされている上條順子会員に『お気に入りのもの、郷土の誇り』について『天下一の桜』と題し、ご入稿頂きました。今後、自薦、他薦問わず、皆様からのご寄稿をお待ちしております。尚、広報担当より、ご依頼申し上げました際には、宜しくお願い致します。（樋渡奈奈子）

## 日本女医会誌

復刊第 243 号 2021 年 9 月 25 日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 大谷智子  
制作 あづま堂印刷

発行所 公益社団法人日本女医会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-19

ロワレル千駄ヶ谷 202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)

